



撮影：今田耕太郎（表紙、並びに当ページ）、撮影協力：大阪市、株ノバラエ

旧造幣寮鑄造所 正面玄関

大阪府大阪市北区天満橋

国際的に通用する日本の通貨をつくる。それは明治政府が威信をかけて取り組んだ大命題の一つだった。貨幣の製造拠点となったのは、造幣局の前身である大阪の造幣寮鑄造所だ。一八七二（明治四）年に完成したこの建物の設計は、お雇い外国人のトーマス・ウォートルス。資材の運搬を大川（旧淀川）の水運に託し、その河岸約一八万平方メートルという広大な敷地に展開させた大工場群だったと伝わる。

現在、この一帯はオフィスビルや店舗が林立し、当時の面影はない。唯一、造幣寮鑄造所の痕跡を伝えているのが、瀟洒な建物の前面に施された、ローマ建築を思わせる正面玄関だ。凝灰質粗面岩（流紋岩）を使った六本のトスカーナ式列柱が支える屋根部は銅板で吹いた切妻造。重厚な木製玄関扉と、その両サイドに配されたアーチ状の窓が優雅な建築美を演出している。

鑄造所は一九二七（昭和二）年頃に老朽化のため廃止されたが、その正面玄関は、八年後に完成した「明治天皇記念館」のファサードとして移築・復元された。記念館は、戦後「桜宮公会堂」となり、正面玄関は一九五六（昭和三十一）年に国の重要文化財に指定された。現在は婚礼施設を兼ねたカフェレストラン「旧桜宮公会堂」として人気を集めている。「一帯は市民の皆さんの憩いの場になっています。正面玄関は重要文化財として未来に残される建物です。この施設で挙式された方々の思い出とともに永遠に受け継がれることを願っています」と同施設の辰己誠治マネージャーは話す。

この正面玄関は、日本が世界列強に比肩すべく目指した近代国家の顔の一つだ。旧大工場のごく一部とはいえ、威厳に満ちた風貌からは、明治政府が日本の将来を託した、祈りにも似た強固な志が迫ってきた。



1935（昭和10）年に完成した旧桜宮公会堂の本体はSRC造だが、建物全体は鑄造所の当時の様子に復元され、鑄造所の正面玄関と共鳴する意匠が各所に施されている。明治から昭和へと、時を超えたデザインの調和が優美さを際立たせている。